

3 モデル地区のまちづくりのあり方・方向性

あいの風とやま鉄道線「富山-東富山間」新駅設置周辺地区(モデル地区①)

案1 これまでの検討・経緯を基とした計画案

- ・住宅系を主体とした土地利用
- ・新駅およびアクセス道路周辺は商業系・業務系を主体とした複合的な利用

第1回検討会におけるご意見

○あいの風とやま鉄道は生活交通であり、毎日利用するような人たちが中心の駅になる。

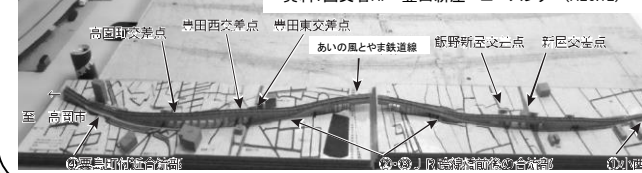
新駅およびアクセス道路周辺地においては、交通の利便性を活かした商業・業務系(スーパー、コンビニ等)を配置

既成の住宅系土地利用を包括する形で住宅系を形成

新駅アクセス道路
県道富山新駅停車場線

国道8号(地域高規格道路)の整備イメージ

資料: 国交省HP 豊田新屋ニュースレター(H26.12)



経緯

- S61 「とやま21世紀都市MIRAI計画調査」において、富山市北東部の副次的拠点地区として位置づけ
- S62. 2 国鉄機構改革により富山操車場の一部機能の廃止
- H 2. 2 国鉄清算事業団資産処分審議会において
富山操車場地区の土地利用計画が答申
・地区のほぼ中央に新駅を設置
・新駅周辺は商業系を主体とした複合利用
その他の地区は流通業務系を主体とした複合利用及び住居系を主体とした土地利用
- H 4. 2 富山操車場跡地周辺土地利用検討委員会を開催
- H 7. 3 富山県土地開発公社 約10.4haの富山操車場跡地を取得
- H11.12 鶴田土地区画整理組合設立準備委員会 発足
- H13. 2 J R 西日本から「採算性の観点から現時点での新駅設置は困難」と回答あり
- H15. 7 鶴田土地区画整理組合設立準備委員会 解散
- H21 県において新駅設置ガイドラインの策定
新駅設置条件
・既存駅間距離4km以上があること
・新規エリアでの駅勢圏人口が概ね5,000人以上、乗車人員500人/日以上
- H22.12 土地開発公社が解散することに伴い、県が約10.4haを取得
- H25. 3 「富山県並行在来線経営計画概要」を策定
・新駅設置の当面の目標として「富山-東富山間」及び「高岡-西高岡間」の2箇所について設置に向けた検討を進めることを位置づけ
- H26. 6 富山市と協議のうえ、新駅設置位置を決定
- H27. 4 新駅へのアクセス道路を「富山新駅停車場線」として県道認定
- H28. 9 富山市地域公共交通網形成計画を策定(新駅を位置づけ)

参考とした過去の資料

- H 4. 2 富山操車場跡地周辺土地利用検討委員会
H 10、H12 県・市・地元の組合で検討した土地区画整理事業の計画

3 モデル地区のまちづくりのあり方・方向性

あいの風とやま鉄道線「富山ー東富山間」新駅設置周辺地区(モデル地区①)

案2 富山市のコンパクトシティの考え方を踏まえた望ましい計画案

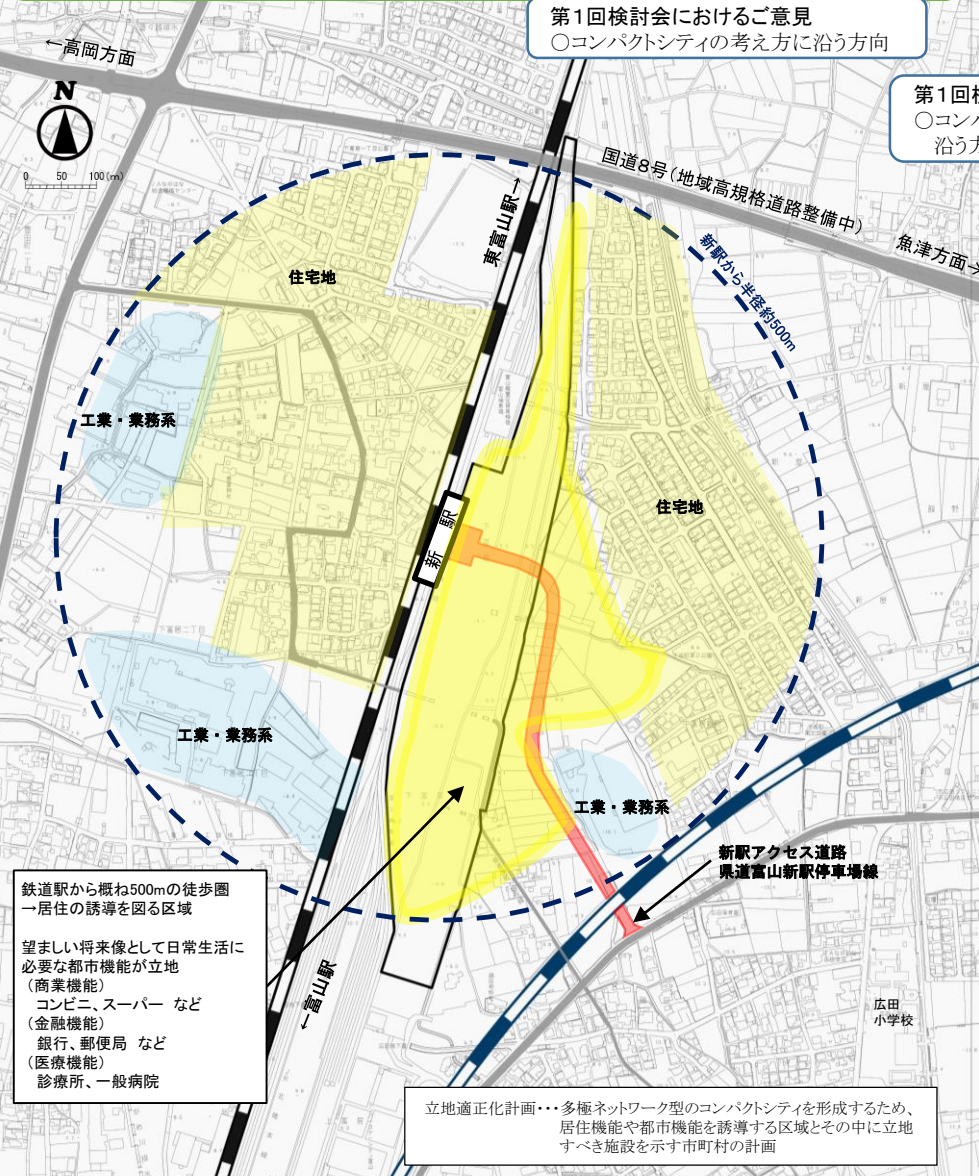
・富山市立地適正化計画(案)では、鉄道駅から概ね500m圏内を徒歩圏として居住の誘導を図る区域とともに、望ましい将来像として日常生活に必要な都市機能(商業機能、金融機能、医療機能)が概ね立地していることとしている。

第1回検討会におけるご意見

○コンパクトシティの考え方に沿う方向

第1回検討会におけるご意見

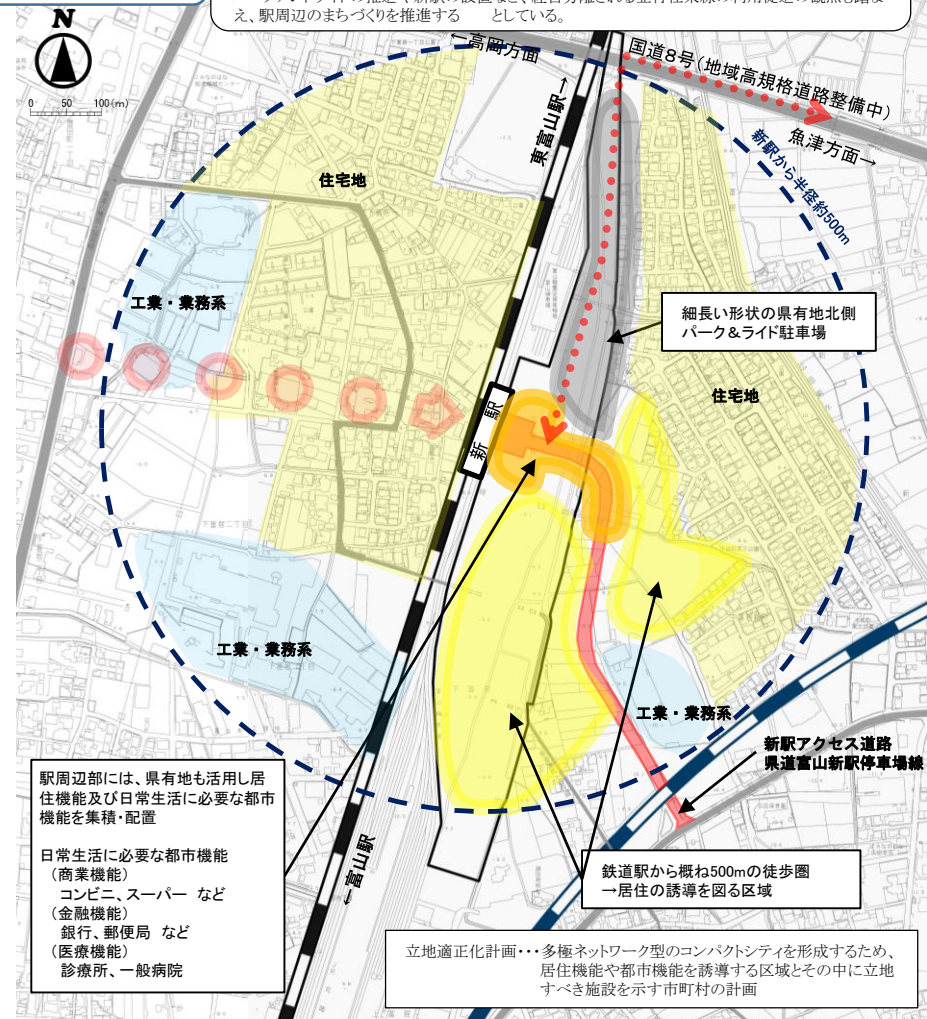
○コンパクトシティの考え方に沿う方向



案2' 富山市のコンパクトシティの考え方を踏まえ都市生活に必要な都市機能を適正かつ計画的に集積・配置した一例

・低・未利用地(県有地)に都市生活必要とされる都市機能を適正かつ計画的に集約・配置した「歩いて暮らせるまち」のモデルケース
・駅周辺部には県有地も活用し、居住機能及び日常生活に必要な都市機能を集積・配置する。
・県有地北側には、新駅の利用促進の観点も踏まえ、パーク&ライド駐車場を配置する。

富山高岡広域都市計画区域マスタープラン(H26.8)では
・都市機能が適正かつ計画的に集積・配置された集約型都市構造の実現に取り組む
・低炭素型の快適で活力ある都市づくりを推進する
・パークアンドライドの推進や新駅の設置など、経営分離される並行在来線の利用促進の観点も踏まえ、駅周辺のまちづくりを推進する としている。



3 モデル地区のまちづくりのあり方・方向性

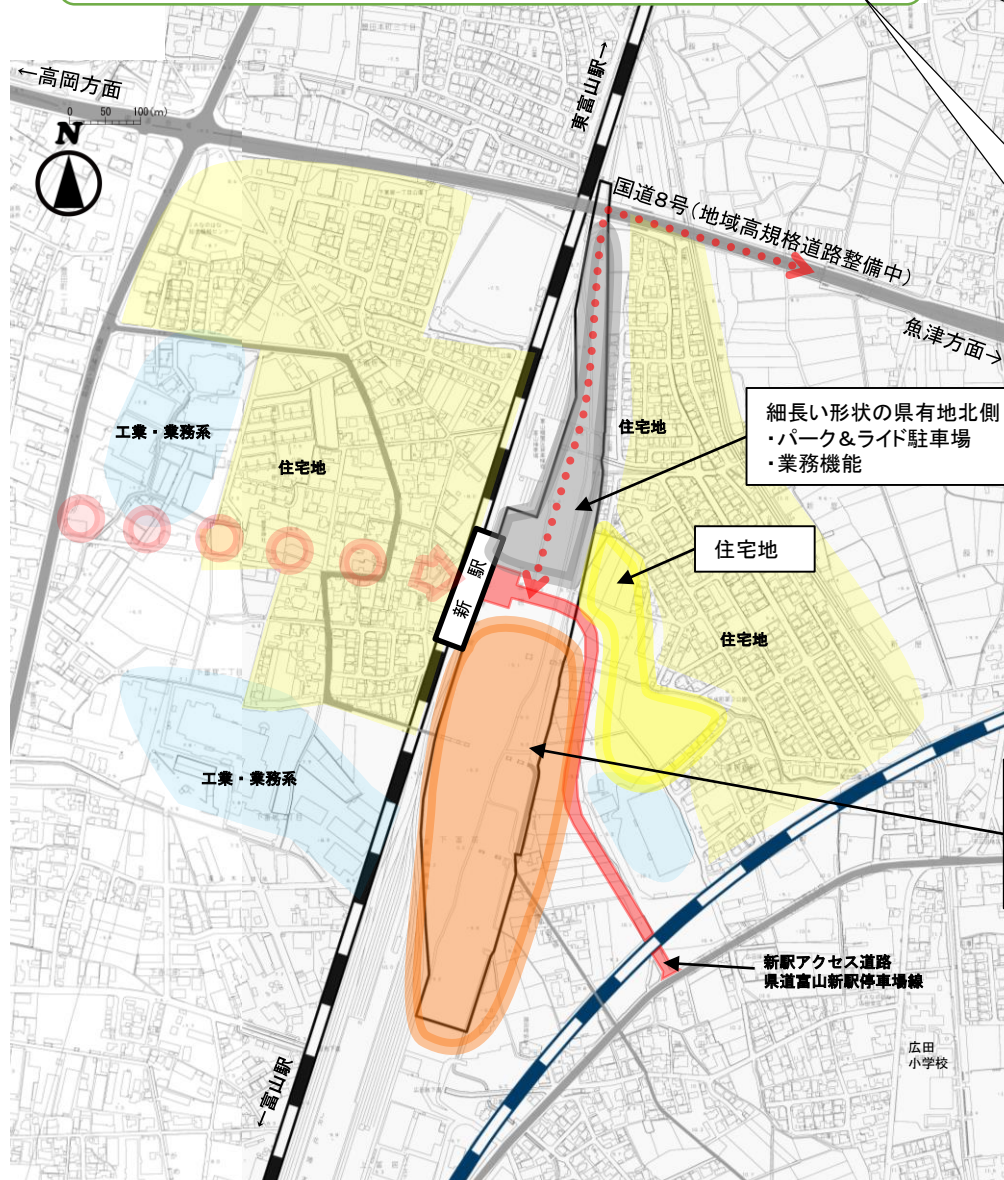
あいの風とやま鉄道線「富山ー東富山間」新駅設置周辺地区(モデル地区①)

案3 複合用途地区とした計画の一例

- ・駅周辺は商業・業務機能や利便性の高い都市型居住機能
- ・県有地を中心に産業の創出・育成を目指したものづくり・研究開発機能
- ・その他背後地は住宅地

富山市都市マスタープラン(H20.3)では当地区について
 ・「新駅の検討、新駅周辺の面整備」、土地利用構想として「複合用途地区」としている。
 複合用途地区・・・住宅と商業業務が複合する都心周辺や幹線道路の沿道工業集積地の周辺で関連機能と住宅が複合する地区

富山高岡広域都市計画区域マスタープラン(H26.8)では
 ・都市機能が適正かつ計画的に集積・配置された集約型都市構造の実現に取り組む
 ・低炭素型の快適で活力ある都市づくりを推進する
 ・パークアンドライドの推進や新駅の設置など、経営分離される並行在来線の利用促進の観点も踏まえ、駅周辺のまちづくりを推進する としている。



細長い形状の県有地北側
 ・パーク&ライド駐車場
 ・業務機能

住宅地

住宅地

- ・商業、業務機能
- ・民間の業務施設
- ・民間の研究開発施設
- ・公共公益施設 等
- ・中高層の集合住宅等

新駅アクセス道路
 県道富山新駅停車場線

広田
 小学校

案 鉄道駅を中心とした持続可能な住宅地の形成

～子育て世代から高齢者まで多様な世代が暮らすライフスタイルを目指して～

【短期イメージ】

・市街地外縁部の特性を踏まえ、駅直近でゆとりのある戸建て住宅地の形成

第1回検討会におけるご意見

- あいの風とやま鉄道は生活交通であり、毎日利用するような人たちが中心の駅。
- 新駅は、住宅街の中の駅。

【将来想定される課題】

- ・新たな市街地となる区域は、分譲当初は30～40代の子育て世代が中心に入居、分譲後10年程度においても大きなばらつきは見られないが、20年30年後には高齢者が中心の住宅地となる。
- ・一方、既成市街地においても、単身高齢世帯の増加、世帯減失が進行し、空き家の増加、まちの存続危機が懸念されている。

第1回検討会におけるご意見

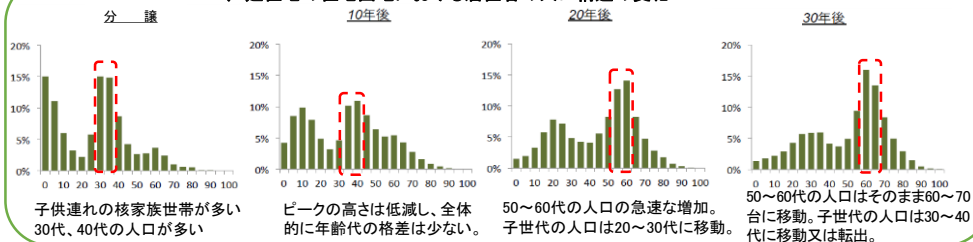
- 駅を地域コミュニティの中心。賑わいの中心となるような仕掛け。
- お年寄りが免許を返納したいが、生活の交通手段がない。自分の家まで移動できる足が確保できれば、お年寄りにも良い

【中・長期的イメージ】

- ①若年層が移り住みたくするような若者向けデザイン of 住宅地へ転換
- ②高齢者層が移り住みたくするような大人向けの住宅地へ転換
- ③年齢の平準化の観点から、戸建中心の一部を賃貸共同住宅へ転換
- ④駅から歩ける範囲であり、今後想定される高齢社会を念頭にサービス付き高齢者住宅や医療介護サービス施設等の社会福祉機能。(子育て家庭、高齢者、障害者など支援が必要な住民を地域で支える、地域共生社会)

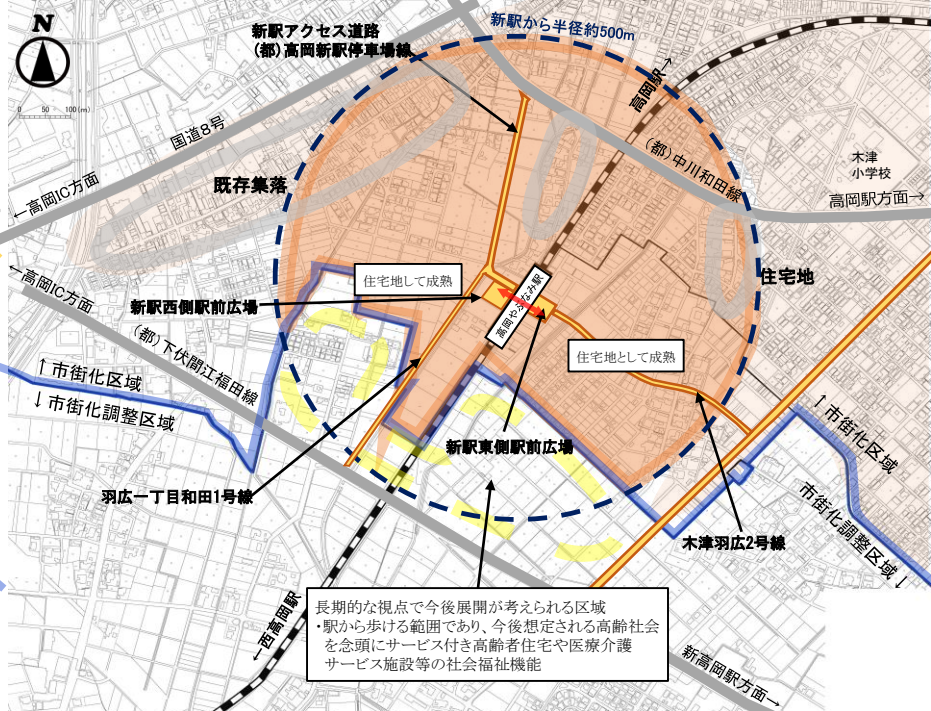
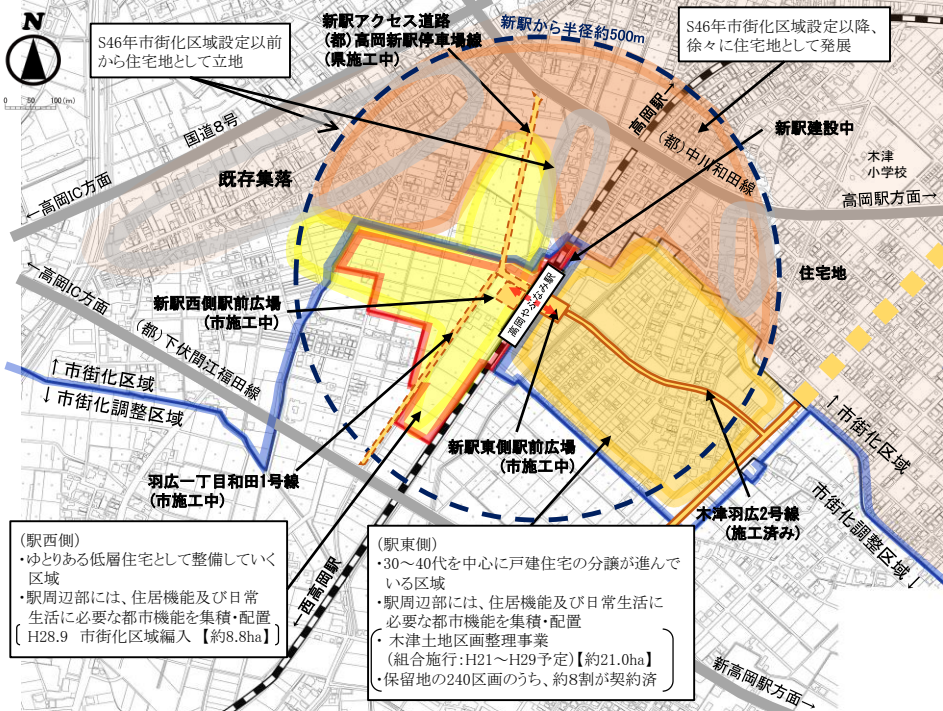
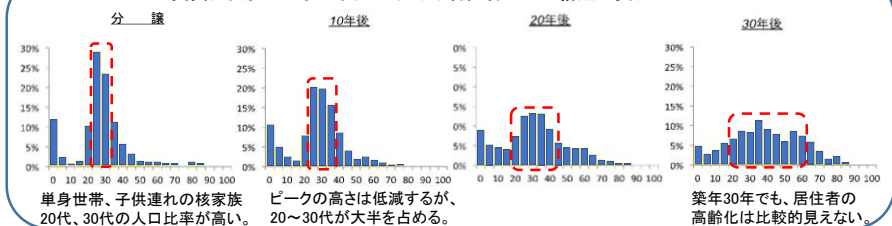
新市街地の取組 → 既成市街地への波及効果に期待

戸建住宅の住宅団地における居住者の人口構造の変化



出典：国土交通省HP「住宅団地再生」連絡会議

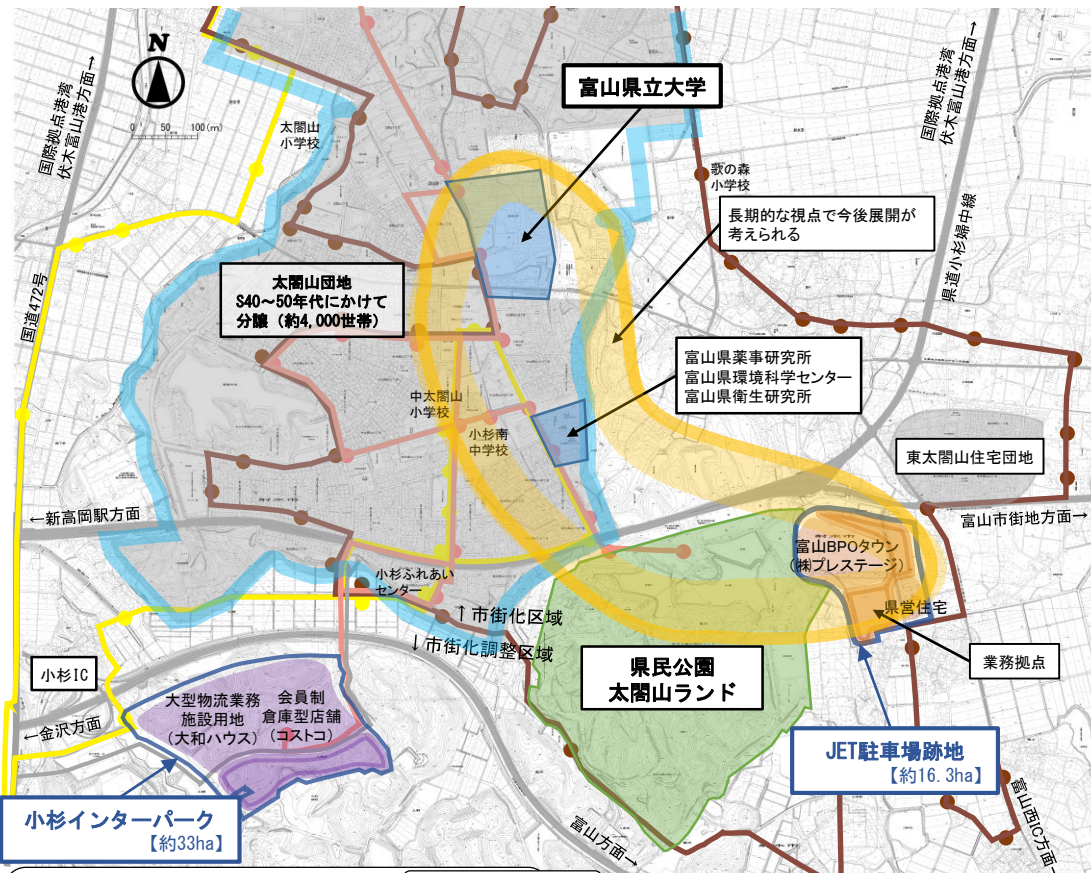
賃貸共同住宅の住宅団地における居住者の人口構造の変化



案 広域交通網の活用と、大学や研究所と連携した職住近接のまちづくりの一例

第1回検討会におけるご意見

○企業立地による転入者のためのモデル的な住宅団地



【JET駐車場跡地周辺地区】

《短期的なイメージ》

居住機能を踏まえたロードサイド店等の検討

○JET駐車場跡地には、高速道路や幹線道路等の利便性を活かした業務機能(雇用確保)



(株)プレステージ・インターナショナル
大規模コールセンター 約40億円
「富山BPOタウン」(2015.4月稼働)



《中・長期的な方向性》

進出企業の今後の経営展開方針や業務展開に留意

○緑あふれる県民公園太閤山ランドの環境を活かした職住近接のまちや、雇用創出を補完、強化するような、企業の福利厚生や地域貢献に資するまち

県民公園太閤山ランド

- ・体育館、グラウンド、テニスコート、プールひろば
- ・野外劇場(イベント施設)など

(株)プレステージ・インターナショナル

- ・女性の仕事と子育ての両立支援(社員寮、保育園)
- ・2016.4月 約220人→2020目標 1,000人体制



○富山県立大学や、薬事研究所、衛生研究所等と連携した学究のまち(医薬品や材料技術などのものづくりに係る学術研究開発、人材育成など)

富山県立大学

目標:高い教育力 未来志向の高度な研究 地域社会への貢献

学部	2015.4	2016.4 (現在)	2017.4
工学部	機械システム工学科 (定員50)	複合材料分野強化 定員+10名	産業界のニーズ踏まえ拡充 2017.4までに入学定員400名増 (2018.4 追加ロボット工学科(定員60名))
	知能デザイン工学科 (定員50)	ロボット関連分野強化 定員+10名	
	情報システム工学科 (定員50)	電気・電子分野強化	電子・情報工学科 定員+30名
	環境工学科 (定員40)	防災防災射撃施設拡充	
	生物工学科 (定員40)	理学部併設工学科 定員+15名	
		企業ニーズを反映	新工学部として全国初 医薬品工学科(定員40名) バイオ医薬製剤技術等

○学生のキャリア形成を支援
・体系的なキャリア形成科目、実践的指導
・県内産業界による寄附講座 など

入学定員 230名 → 入学定員 330名(①)

富山県薬事研究所「未来創薬開発支援分析センター(仮称)」

- ・効果の高い抗がん剤などとして実用化が進む
 - ・バイオ医薬品等の付加価値の高い製品の研究開発に資する分析機器等を整備
 - ・県内のメーカーや大学における研究開発を促進するとともに、人材育成にも活用
- 2016~2017年度整備

第1回検討会におけるご意見

- 非常に道路のアクセスがいいので、住宅よりは、物流の拠点となるような倉庫、運送関係。
- 立地的には物流の企業等が多い。

【小杉インターパーク(第三地区)周辺地区】

- 港や高速道路と直結する広域交通網に隣接する立地条件を活かした物流の拠点となるまち
- 既存事業所との連携や相乗効果を視野に、地場産品の広域流通や交流拡大に資する機能を有するまち

周辺のアクセス状況

北陸自動車道へのアクセス
小杉ICまで約1.4km、車で約3分

国際拠点伏木富山港へのアクセス

国道472号(4車線)で約11.5km、車で約25分
県道小杉婦中線(4車線化事業中)で約10km、車で約20分

○近い将来、住民が一斉に入居したことによる、急激な高齢化が懸念される太閤山団地(郊外における持続可能な住宅団地)の取り組みに資するまち

